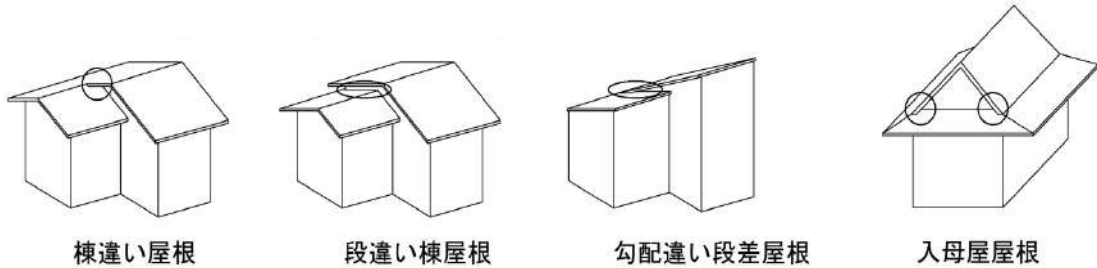


『(形状上) 下ぶき材の立ち上がり高さが 250 mm未滿となる場合の防水・止水措置』

仕様 7-① 棟違い屋根、段違い屋根、入母屋屋根等とする場合

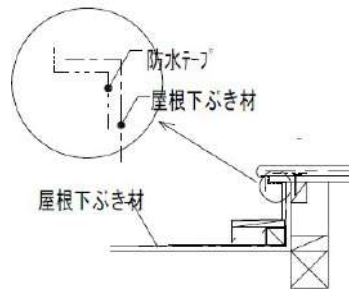
棟違い屋根、段違い屋根、入母屋屋根等とし、形状上やむを得ず、屋根と外壁の取合い部において下ぶき材の立ち上がり高さが 250 mm未滿となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第 7 条 2 項 (4) に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

1. 下ぶき材を立ち上げて、端部は伸張性のある防水テープ等で密着させる [納まり図 1・2]
(母屋等と取合う凹凸部も確実に密着させる)
又は 軒の出がない場合は、下屋根の下ぶき材を巻上げ、その上に上屋根の下ぶき材を重ね巻き下げる [納まり図 3]
2. 三面交点となる部分 (下図○部分) はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す [納まり図 1・2・3]

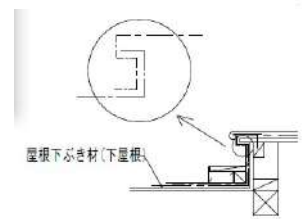


納まり図 1 (破風板付の場合)

納まり図 2 (破風板無の場合)

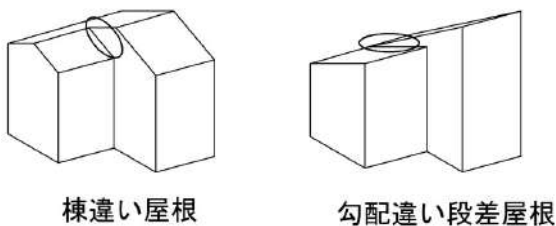


不適切な事例

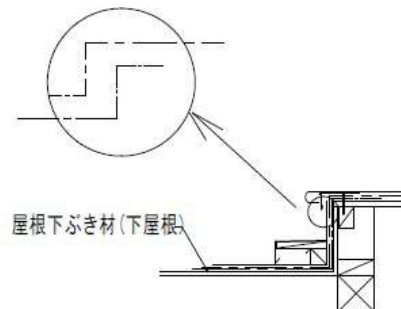
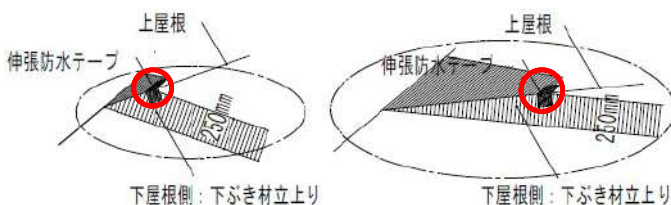


下ぶき材を野地板に沿って折り曲げると破断する可能性があるため不適切

納まり図 3 (軒の出がない場合)



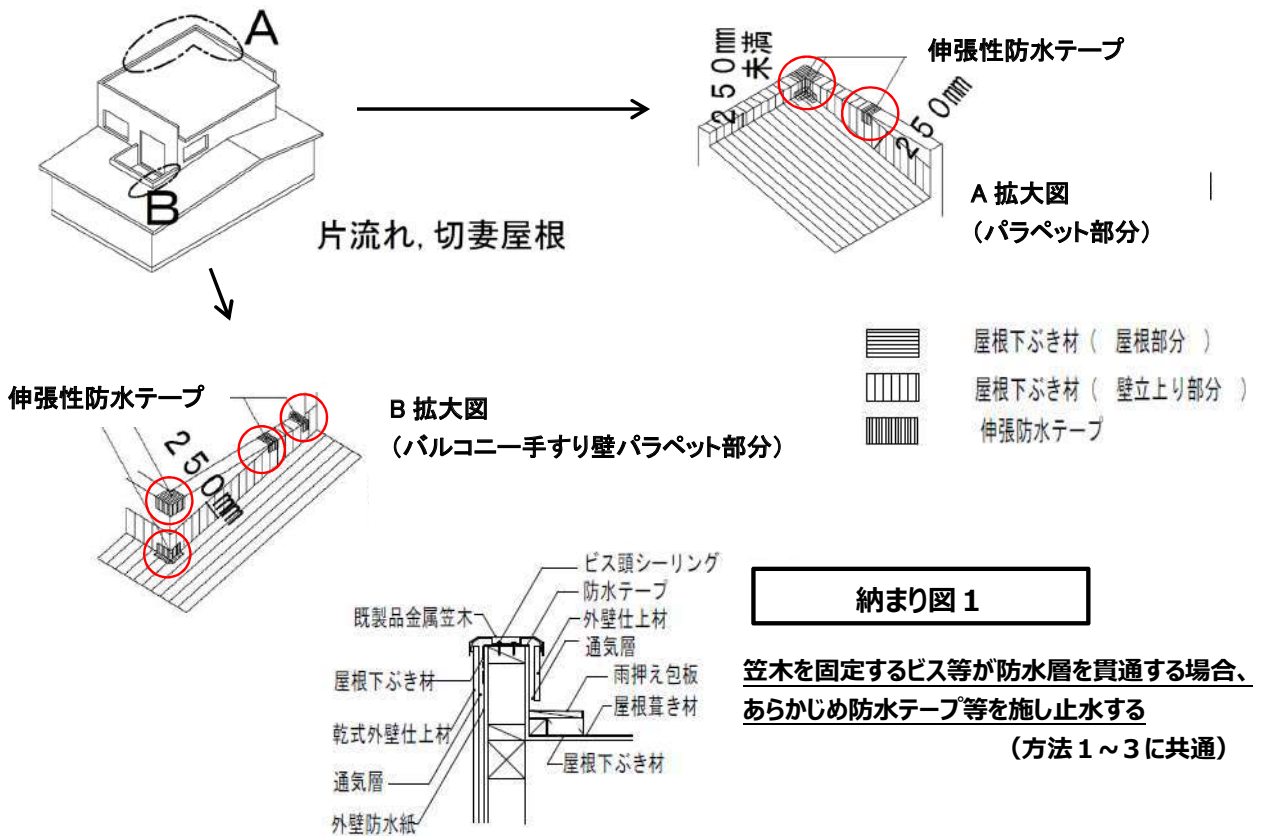
下屋根の下ぶき材を巻上げ、その上に上屋根の下ぶき材を重ね巻き下げる



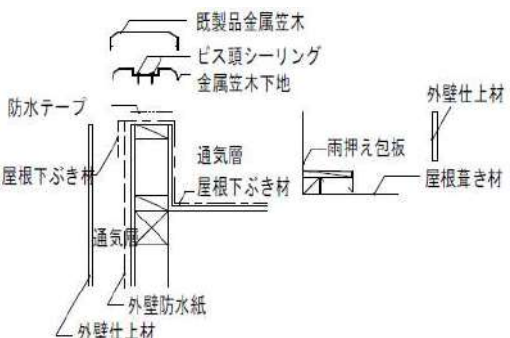
『(形状上) 下ぶき材の立ち上がり高さが 250 mm未滿となる場合の防水・止水措置』
仕様 7-② 勾配屋根とパラペット・手すり壁が取合う場合

勾配屋根とパラペット・手すり壁が取合い、形状上やむを得ず、屋根とパラペット・手すり壁の取合い部において下ぶき材の立ち上がり高さが 250 mm未滿となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第 7 条 2 項 (4) に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

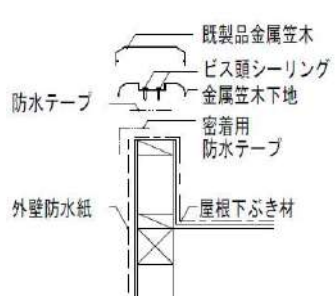
1. 下ぶき材を立上げてパラペット天端から外壁防水紙の上に重ねる [納まり図 1]
 又は 下ぶき材と外壁防水紙を防水テープにて密着させる[納まり図 2・3]
2. 三面交点となる部分 (下图○部分) はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す [納まり図 1・2・3]



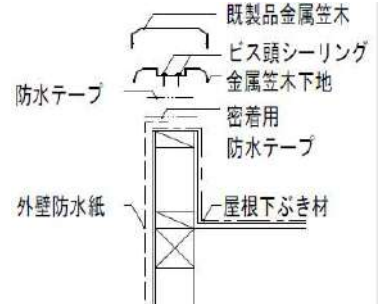
納まり図 1・分解図



納まり図 2・分解図



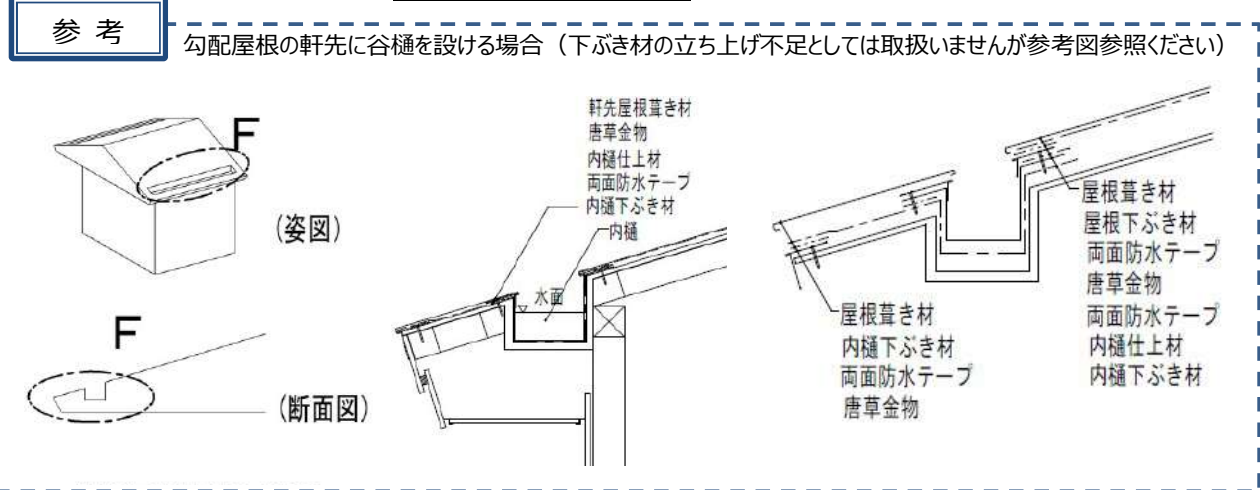
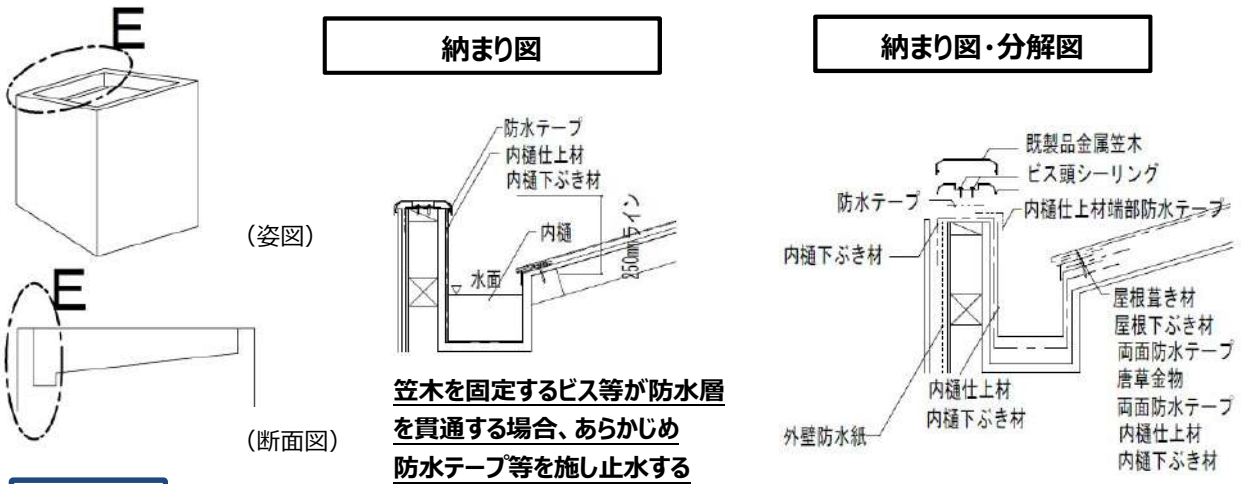
納まり図 3・分解図



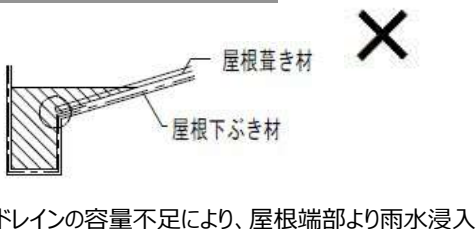
『(形状上) 下ぶき材の立ち上がり高さが 250 mm未滿となる場合の防水・止水措置』
仕様 7-③ 勾配屋根とパラペットが取合う場合 (水下側に内樋・谷樋を設ける場合)

勾配屋根とパラペットが取合い、形状上やむを得ず、屋根とパラペットの取合い部において下ぶき材の立ち上がり高さが 250 mm未滿となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第 7 条 2 項 (4) に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

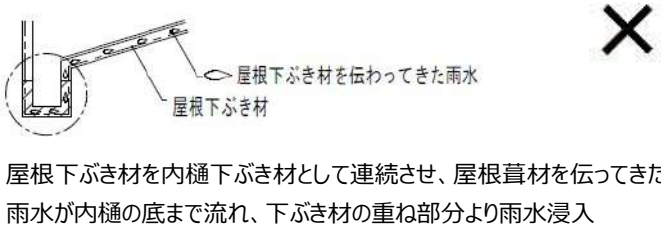
1. 内樋下ぶき材及び内樋仕上げ材を屋根面まで巻き上げ、その上に屋根下ぶき材を重ね、防水テープで密着させる
2. 内樋下ぶき材を立上げてパラペット天端から外壁防水紙の上に重ねる
3. 内樋寸法及びドレイン、樋の径及び樋勾配は、地域降雨量の記録から速やかに雨水等を排出させるものとする



不適切な事例①



不適切な事例②

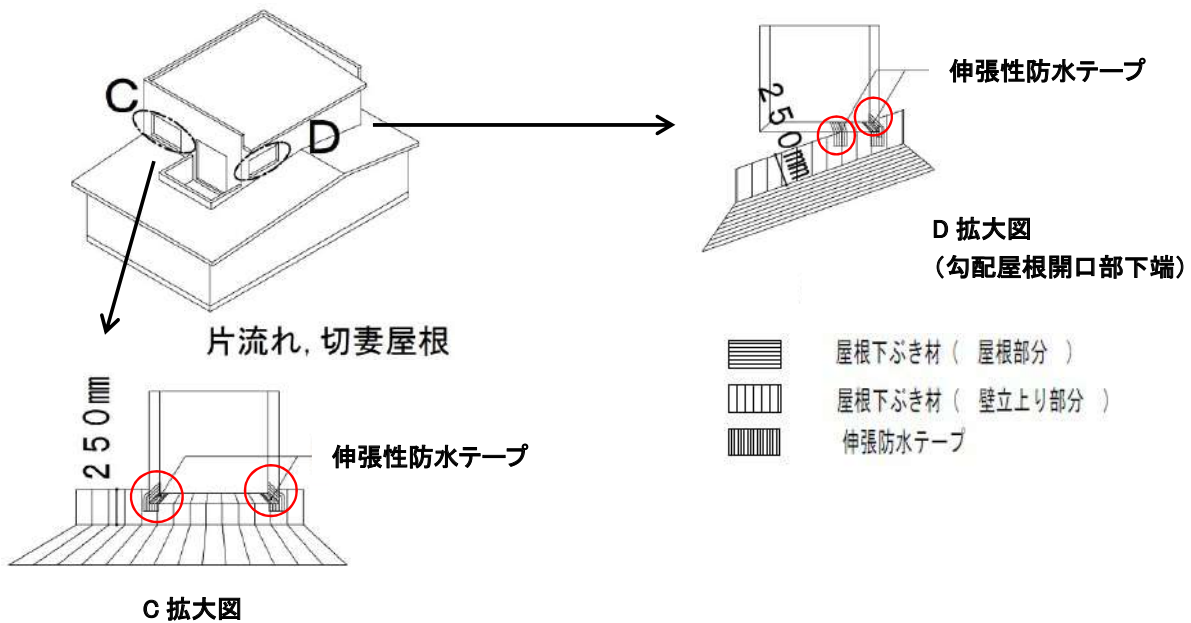


『(形状上) 下ぶき材の立ち上がり高さが 250 mm未滿となる場合の防水・止水措置』

仕様 7-④ 勾配屋根のすぐ上に窓がある場合

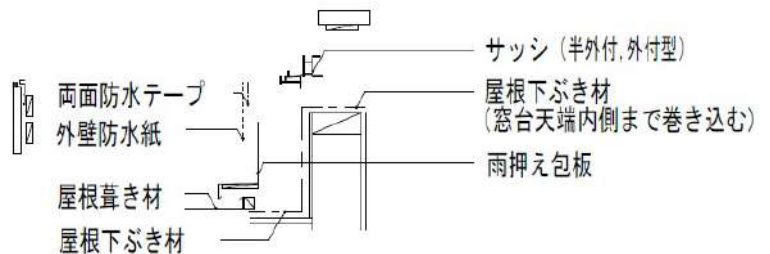
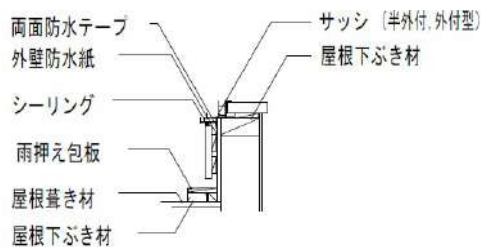
屋根のすぐ上に窓があり、形状上やむを得ず、屋根と窓が取合う部分において下ぶき材の立ち上がり高さが 250 mm未滿となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第 7 条 2 項 (4) に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

1. 下ぶき材を壁面に立ち上げて窓台天端に巻き込む[納まり図 1] 又は 先張り防水シート (改質アスファルト系) を施す[納まり図 2]
2. 三面交点となる部分 (下図○部分) はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す [納まり図 1・2]



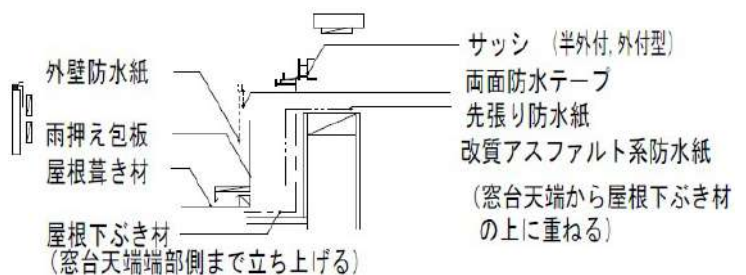
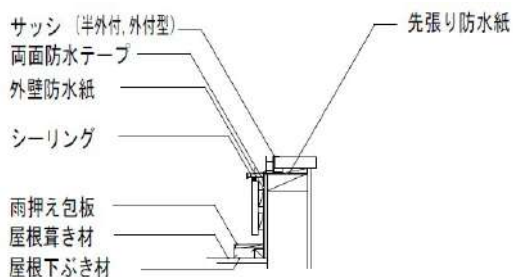
納まり図 1 (下ぶき材を壁面に立ち上げて窓台天端に巻き込む場合)

納まり図 1・分解図



納まり図 2 (先張り防水シート(改質アスファルト系)を施す場合)

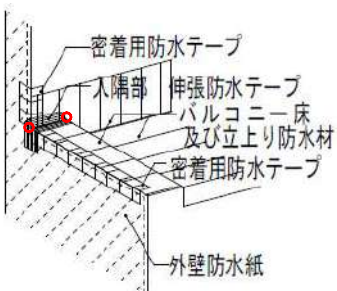
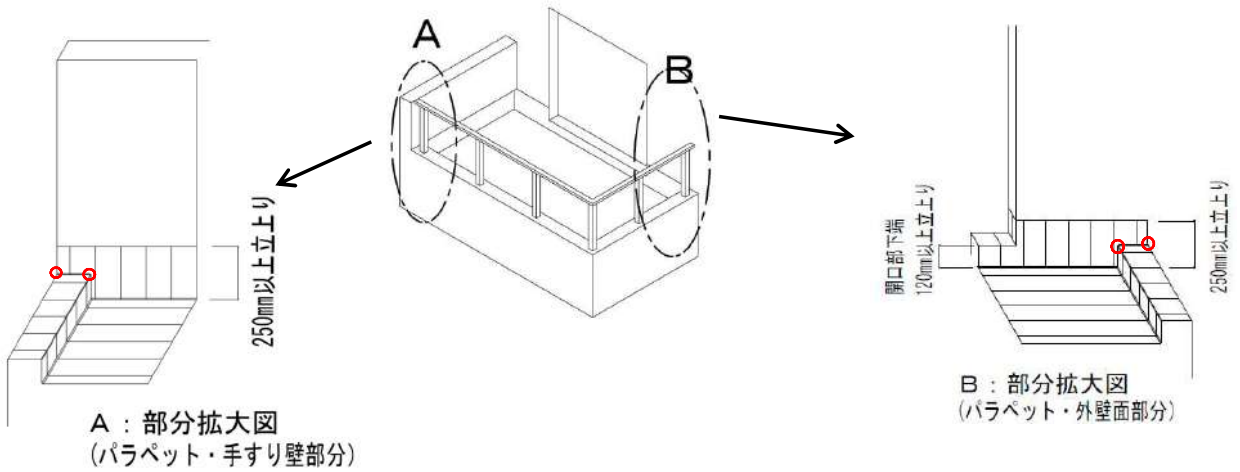
納まり図 2・分解図



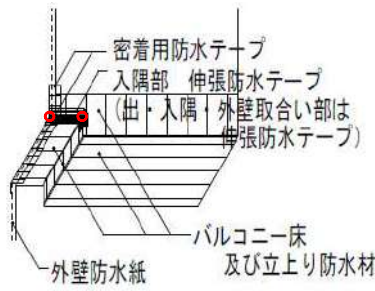
『(形状上) 防水層の立上り高さが 250mm 未満となる場合の防水・止水措置』
仕様 8-① 手すり壁にアルミ製等の手すりを取付ける場合

手すり壁に既製品アルミ製笠木・手すりを取付けるため、形状上やむを得ず、手すり壁部分において防水層の立上り高さが 250mm 未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第 8 条 3 項に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

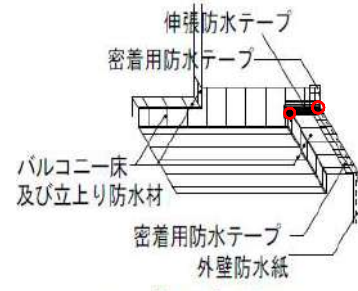
1. バルコニー床防水材をパラペット天端外部階端部まで施し、外壁防水紙と密着させる。
2. 三面交点となる部分(下図○部分(出・入隅部,外壁階取合い部))はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す。



A : 部分解説図



A : 部分解説図



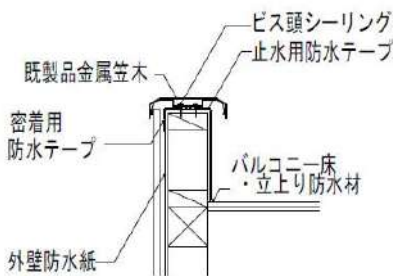
B : 部分解説図

外壁防水紙 (通気構法: 透湿防水シート, 非通気構法: アスファルトフェルト430以上 「パラ」外取合い部分のみ表示)

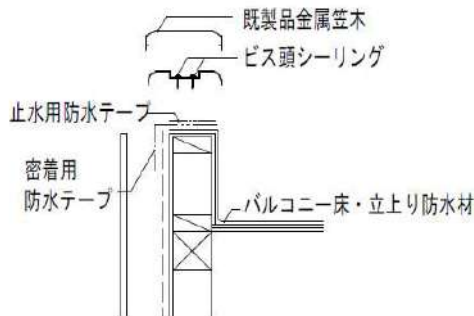
バルコニー床及び立上り防水材 (FRP防水等) 三面交点止水措置用 伸張防水テープ 密着用防水テープ

(密着用防水テープはパラペット外側端部で床・壁防水層と外壁防水紙を連続し密着する。)

納まり図



納まり図・分解図

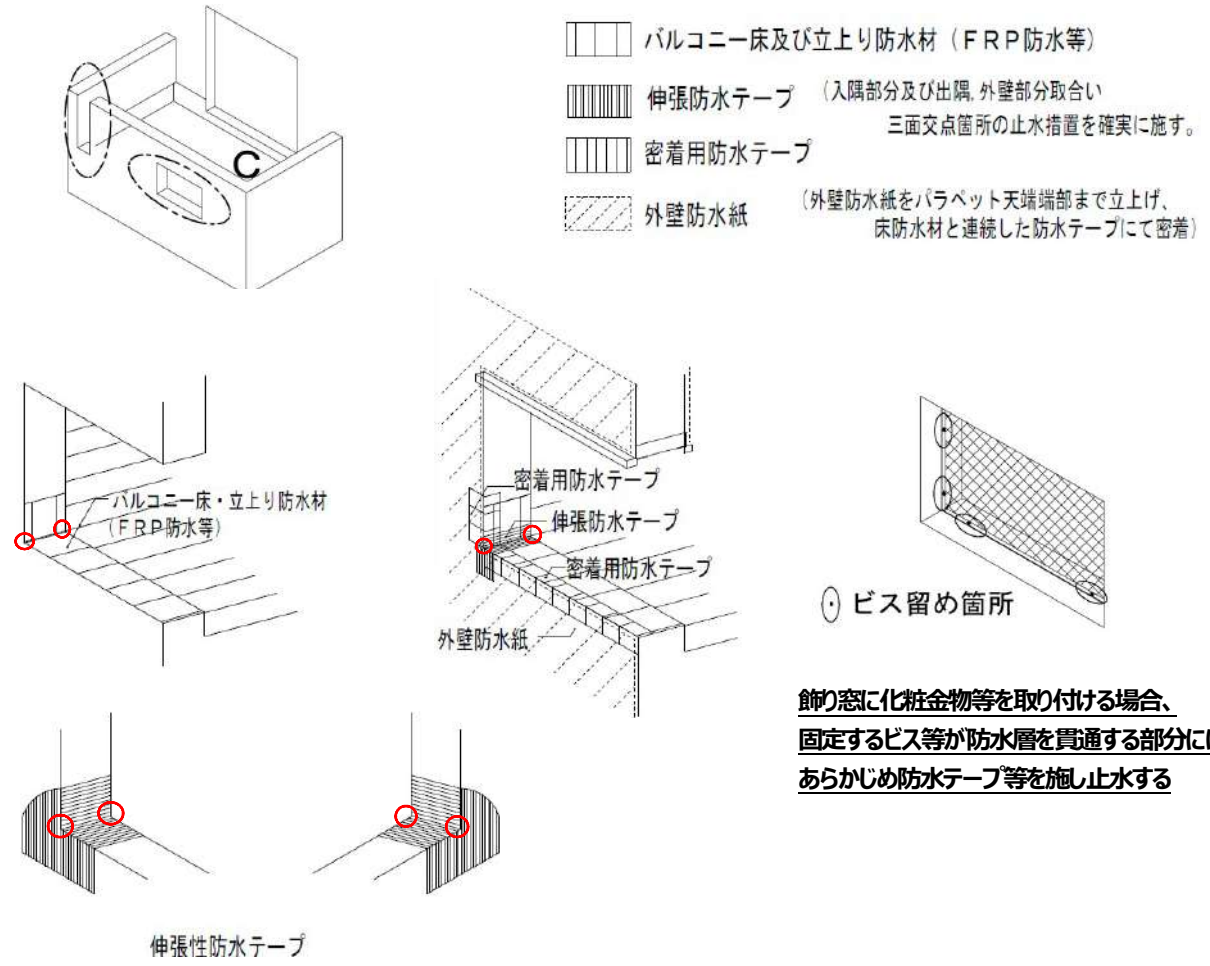


笠木を固定するビス等が防水層を貫通する場合、あらかじめ防水テープ等を施し止水する

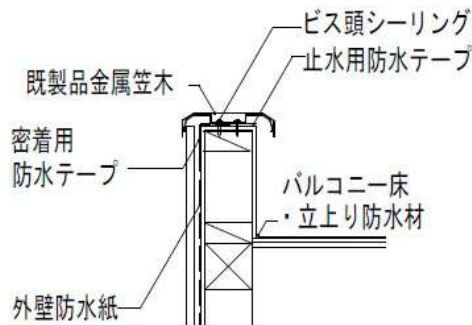
『(形状上) 防水層の立上り高さが250mm未満となる場合の防水・止水措置』
仕様 8-② 手すり壁にスリットや飾り窓を設ける場合

手すり壁にスリットや飾り窓を設けるため、形状上やむを得ず、スリットや飾り窓部分において防水層の立上り高さが250mm未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第8条3項に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

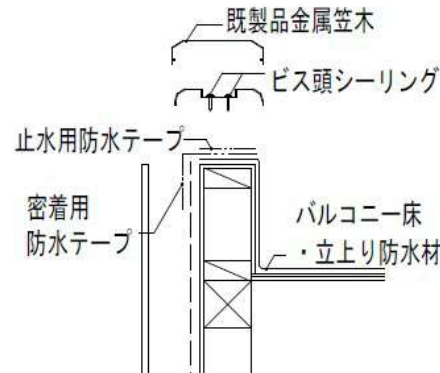
1. バルコニー床防水材料をパラペット天端外部階端部まで施し、外壁防水紙と密着させる。
2. 三面交点となる部分(下図○部分(出・入隅部、外壁取合い部))はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す。



納まり図



納まり図・分解図



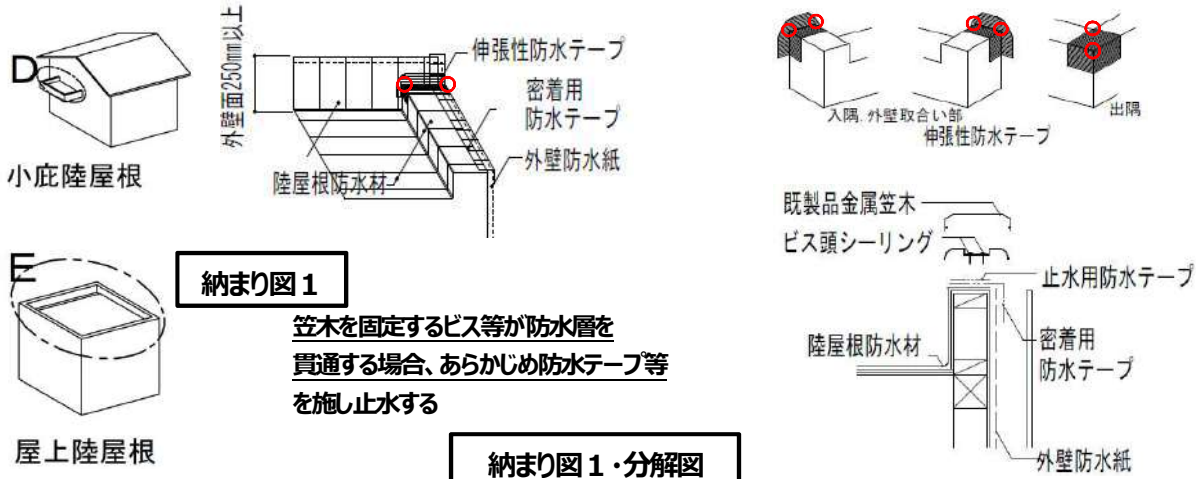
笠木を固定するビス等が防水層を貫通する場合、あらかじめ防水テープ等を施し止水する

『(形状上) 防水層の立上り高さが 250 mm 未満となる場合の防水・止水措置』

仕様 8-③ パラペット自体の高さが 250 mm 未満の場合

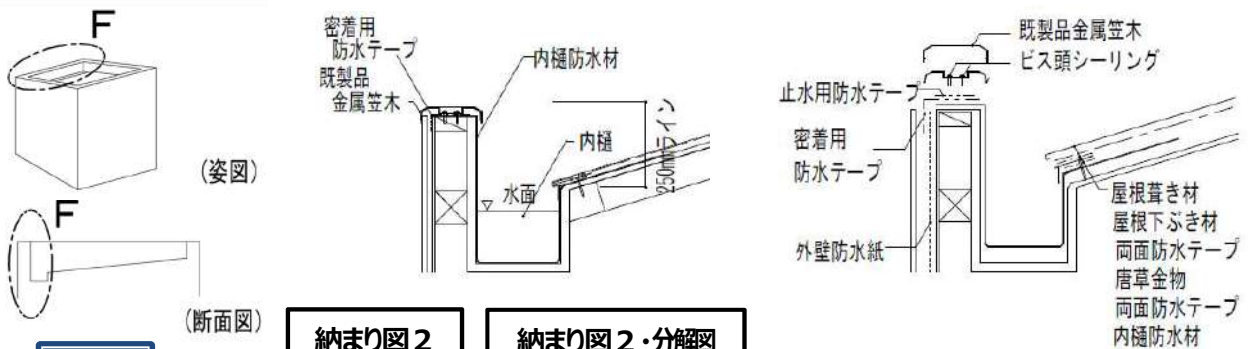
パラペット自体の高さが 250 mm 未満のため、形状上やむを得ず、パラペット部分において防水層の立上り高さが 250 mm 未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第 8 条 3 項に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

1. 陸屋根防水材をパラペット天端外部端部まで施し、外壁防水紙と密着させる [納まり図 1]
2. 三面交点となる部分 (下図○部分(出・入隅部, 外壁取合い部)) はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す。



(水下側に内樋を設ける場合 [納まり図 2] 参照)

3. 内樋防水材 (FRP 防水等) は屋根面まで巻き上げ、その上に屋根下葺き材を重ね、防水テープで密着させる。
4. 内樋防水材 (FRP 防水等) をパラペット天端外部端部まで施し、外壁防水紙と密着させる。
5. 内樋寸法及びドレイン、樋の径及び樋勾配は、地域降雨量の記録から速やかに雨水等を排出させるものとする。



参考

勾配屋根の軒先に谷樋を設ける場合 (防水層の立上り高さ不足として取扱いません)

